

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

| | |
|-----------|--|
| ふり 氏 名 | あきかぜ 秋風 ちえ 千恵 |
| (研究テーマ名) | 障害とジェンダー 特に就労に関する問題を中心に |
| (研究活動実績) | <p>前年度は私自身も家族も入退院を繰り返したが、今年度は体調も回復し、昨年よりは研究にも力を入れることができた。</p> <p>【2013 年度学会報告】</p> <p>一般報告 「ディスアビリティと格闘する—重度・軽度の淡いにいる障害者たち—」 第 6 4 回関西社会学会大会 2013 年 5 月 19 日 (於：大谷大学)</p> <p>博士論文のうちの 1 章を基に、障害当事者のディスアビリティとの格闘から、彼らがこの社会に包摂される方法を模索する報告となった。対象としたのは、その障害が重度でも軽度でもないグラデーションのなかにいると考えられる人々である。現代社会では、情報はその多くを視覚に訴えてくる。そういう社会のなかで情報の受信を制限されている人たち、視覚のインペアメントが高い人たちの日常生活はディスアビリティも高いのではないかと考えていたが、報告者の周辺にいる視覚障害者たちは、いつも難なく日常生活を送っているようなのだ。インペアメントは高いが、ディスアビリティは思ったほど高くないようなのである。そうであるならば、グラデーションのなかの人々としては、最適の対象であると考えた。本報告は、2009 年 7 月から 2010 年 5 月の期間に 11 人の視覚障害者に行ったインタビュー調査に基づいている。</p> <p>【2013 年度研究内容】</p> <ul style="list-style-type: none">研究会等 2013 年 6 月、拙著『軽度障害の社会学—「異化&統合」をめざして』の合評会 50 人弱の人が集まってくれて、たくさんの示唆を受けた。今後の研究に向けて、大いに参考になった。ありがとうございました。 2013 年 10 月、関西データセッション研究会にて報告 上記関西社会学会での報告内容と同じ。 他、報告なく参加だけの研究会は多数。論文 「障害者が高等教育へ進む道を拓くために」『広島部落解放研究』20 号 81-98 頁 2014 年 1 月発行フィールド・ワーク 松江市内にある、主に発達障害者や精神障害、知的障害者が働く NPO 法人で、昨年 10 月から参与観察をさせてもらっている。弁当の作成販売等の業務を行っているが、収入が低く就労形態としては弱く、いわゆる居場所として機能している場所である。稼働可能な人とそうでない人、可能でも毎日労働するのは無理な人等、20 人ほどが出入りしている。インタビュー調査 今年度も引き続き、松江市内の障害者にインタビュー調査を続けている。現在のところ、就労している女性障害者を主に対象としているが、男性にも調査の許可を得ている。 |

